

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果：

(データ集約:8/11)  
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239+240
グラウンド(西北西約500m) <sup>1</sup>	2015年5月11日	N.D. [ $1.7 \times 10^{-2}$ ]	N.D. [ $1.6 \times 10^{-2}$ ]
野鳥の森(西約500m) <sup>1</sup>		N.D. [ $1.4 \times 10^{-2}$ ]	$(1.2 \pm 0.14) \times 10^{-1}$
産廃処分場近傍(南南西約500m) <sup>1</sup>	採取中止 <sup>3</sup>	-	-
国内の土壤(昭和53年～平成20年) <sup>2</sup>		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. $\sim 4.5$

[ ]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
- 2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)
- 3：フェーシングにより採取出来ず。

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

2015年5月11日に検出されたPu-239+240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上